

日中対照言語学会

第26回大会（2011年度冬季大会）のご案内

本学会では、下記の要領で2011年度冬期大会を開催いたします。会員の皆さまには、お誘い合わせのうえ奮ってご参加下さい。また、会員以外の方の参加も歓迎いたします。

記

日 時：2011年12月18日（日）午前9時20分より午後4時50分まで
会 場：大阪産業大学梅田サテライト（JR大阪駅南口下車、阪神百貨店右の通りを直進、徒歩5分、大阪駅前第三ビル19階。大阪市北区梅田1-1-3。電話 06-6442-5522）
参加費：1000円（会員、非会員共通）

プログラム

受付		9:00-
	総合司会 竹島毅（大東文化大学）	
開会の辞	高橋弥守彦（大東文化大学）	9:20-9:30
研究発表 1.	中国語における人称代名詞と指示詞の共起特徴をめぐって	9:30-10:00
	—【人称代名詞+“这/那”+量詞+名詞】構文とその日本語訳を中心に—	楊蕾（京大外大）
研究発表 2.	中国語母語話者の副詞的修飾成分の誤用について	10:00-10:30
	—「～ ϕ 型」と「～に型」の誤用を中心に—	林春（関西学院大学院生）
	以上司会 張黎（大阪産業大学）	
休憩（10分）		10:30-10:40
研究発表 3.	サ変動詞と対応する中国語の品詞性	10:40-11:10
	熊薇（神戸大学院生）	
研究発表 4.	「餅」と“餅”——日中対照	11:10-11:40
	続三義（東洋大学）	以上司会 彭飛（京都外国語大学）
昼休み（60分）	昼食は各自でお取り下さい。ビルの階下に食堂街あり	11:40-12:40
研究発表 5.	言語的修復行動の日中対照研究	12:40-13:10
	—自己開始・自己修復を中心に—	張玲玲（北海道大学院生）
研究発表 6.	名詞述語文の属性と時間性—日中対照の観点から—	13:10-13:40
	王学群（東洋大学）	以上司会 豊嶋裕子（東海大学）
講演	日中を含むアジア言語対照のゆくえ	13:40-14:40
	池田哲郎（京都産業大学）	司会 余維（関西外国語大学）
休憩（20分）		14:40-15:00
研究発表 7.	日中受身文の対照研究—リアリティの観点から—	15:00-15:30
	楊彩虹（立命館大学）	
研究発表 8.	受身表現について—日本語との対照から見た考察—	15:30-16:00
	藤田昌志（三重大学）	
研究発表 9.	日中両言語の受身表現を用いる言語環境について	16:00-16:30
	高橋弥守彦（大東文化大学）	以上司会 山口直人（大東文化大学）
閉会の辞	余維（関西外国語大学）	16:30-16:40

※入会申し込み、学会開催当日に学会費の納入も受け付けます。（年会費：社会人 4000円、院生 2000円）

日中対照言語学会

第26回大会（2011年度冬季大会）

研究発表と講演の要旨

研究発表1. 中国語における人称代名詞と指示詞の共起特徴をめぐって 9:30-10:00

—【人称代名詞+“这/那”+量詞+名詞】構文とその日本語訳を中心に— 楊蕾（京都外大）

去年の発表では、「中日対訳コーパス」から抽出された実例とそれに対応する日本語訳で、【人称代名詞+“这/那”+量詞+名詞】構文を、“我这个人”のような「同位構造」と“我那张嘴”のような「所属構造」に分け、その構文における人称代名詞と“这/那”の共起状況を考察し、次のような特徴が明らかになった。

①「同位構造」の【人称代名詞+“这/那”+量詞+名詞】構文においては、“这”は第一、第二、第三人称と共起でき、“那”は第三人称しか共起できない。（“我这个人”“你这个人”は使えるが、“我那个人”“你那个人”は使わない）

②「所属構造」の【人称代名詞+“这/那”+量詞+名詞】構文においては、“这/那”は第一、第二、第三人称と共起できる。

本研究は「空間的距離」「時間的距離」「心理的距離」などの条件から①②を解釈することにした。また「内的視点」と「外的視点」から、【人称代名詞+“这/那”+量詞+名詞】構文と単独で用いられる人称代名詞の相違点を分析した。

研究発表2. 中国語母語話者の副詞的修飾成分の誤用について— 10:00-10:30

「～ ϕ 型」と「～に型」の誤用を中心に— 林春（関西学院大学院生）

本発表は『中国語母語話者の日本語誤用コーパス』から「～ ϕ 型」と「～に型」の副詞的修飾成分の全誤用例を分析し、その誤用のパターン化を図ったうえで、中国語母語話者の副詞的修飾成分の誤用が生じる要因およびメカニズムを明らかにしてみたい。その誤用例を考察した結果、次のような結論になると考えられる。

① 「～ ϕ 型」と「～に型」の誤用は「 $X \rightarrow X + \text{に}$ 」と「 $X + \text{に} \rightarrow X$ 」というパターンに分けることができる。

② 「～ ϕ 型」の誤用パターンには、文法知識の欠如による誤用だけでなく、母語干渉による誤用もある。また、「～に型」の誤用パターンには、過剰般化による誤用だけでなく、先行研究では言及されていない過剰般化と母語干渉という複数の要因による誤用もある。

③ 学習時間が増えるにつれて、学習者の母語干渉による誤用が次第に減っていく傾向性が見られる。一方、学習時間が増えたとしても、学習者の過剰般化による誤用はあまり減らない傾向性も見られる。

以上司会 張黎（大阪産業大学）

休憩 (10分)

10:30-10:40

研究発表 3. サ変動詞と対応する中国語の品詞性
熊薇 (神戸大学院生)

10:40-11:10

日本語と中国語には、「科学」「文化」などのような、字形が同じである語が多数存在しているため、中国語母語話者の日本語の漢語学習においても、日本語母語話者の中国語学習においても、同形漢語が大きな手助けになっている。しかし、日中両言語における解釈が異なるため、日中同形漢語には品詞的ズレが見られる (中川 2008)。本研究は語構成という視点から、使用頻度の高いサ変動詞とそれに対応する中国語を対照する。その結果、日本語ではサ変動詞になるが、中国語では名詞、形容詞、動詞、副詞として使われる。そして、名詞になる語には名詞要素の含まない VV、AA 型があり、形容詞になる語には形容詞要素の含まない VN、VV 型がある。その場合、名詞では動作や様態を表す専用名詞になる。形容詞では動作の結果・状態を表すことになる。

研究発表 4. 「餅」と“餅”——日中対照
続三義 (東洋大学)

11:10-11:40

近年来、日本の社会生活上、特に政治に関して、「絵に描いた餅」という言葉が流行っているように見える。しかし、「絵にかいた餅」という熟語にある「餅」はどのような意味なのか、日本人の言語生活における「餅」とはどんなものなのか、そしてそれに対応する中国語には“餅”というものもあるが、中国語の“餅”はどのような意味なのか、この二つはどう対応しているのだろうか。本文では、まず「絵にかいた餅」という熟語から日本語の「餅」とそれに対応する中国語の“画餅”の“餅”の問題について述べ、その後、日本の「餅」と中国の“餅”はそれぞれどのようなものがあるのかについて調べ、最後に言語文化的視点から「餅」と“餅”について簡単に触れてみたい。

以上司会 彭飛 (京都外国語大学)

昼休み (60分 昼食は各自でお取り下さい。ビルの階下に食堂街あり) 11:40-12:40

研究発表 5. 言語的修復行動の日中対照研究

12:40-13:10

—自己開始・自己修復を中心に 張玲玲 (北海道大学院生)

会話修復は従来会話分析の一分野として研究されてきた。修復行為を「トラブル源+修復開始+修復部分」に分け、各部分における構造・テクニックなどについて実証的研究が行われてきている。これまでの先行研究では、ミクロ的な考察が多く、修復行動を施す動機・効果など深層メカニズムをマクロレベル的なものはまだ少ないようである。そこで、深層的な探究の予備段階として、本稿では、実際の会話資料からなるコーパスから「自己開始・自己修復」という修復パターンを含む会話の連鎖を取り出し、トラブル源の性質を

検討する上で、同じ性質のトラブル源に対して使われる修復のストラテジーにはどんな差異があるかという問題に着目し、日中間の対照を行うつもりである。

研究発表 6. 名詞述語文の属性と時間性—日中対照の観点から— 13:10—13:40
王学群 (東洋大学)

本稿では名詞述語文における属性と時間性について、日中対照の観点から考察したいと考えている。主な研究目的は、どういう場合に時間的な使い方において違いがあるのかを検討することである。それによって、両者の時間性での異なりを明らかにする。

以上司会 豊嶋裕子 (東海大学)

講演 日中を含むアジア言語対照のゆくえ 13:40—14:40
池田哲郎 (京都産業大学)

日本語文法論の最新成果でもある小泉 保先生(1926-2009)の著作二点を一括して論評する:(1)『現代日本語文典』(東京:大学書林)(2008)、(2)『日英対照 すべての英文構造が分かる本』(東京:開拓社)(2009)。

『現代日本語文典』は 21 世紀の標準的な日本語教科書である。日本の国語国文法としては、現代日本語を共時的に考える文法である。分かりやすい実例と理論とで構成され、きちんとしている。『日英対照 すべての英文構造が分かる本』では述語に絞っているが、日本語の構文とそれに対応する英語の構文とが提供されている。

本題を「日中を含むアジア言語対照のゆくえ」、正確には「言語の構造とアジア—日中を含むアジア言語対照のゆくえ—」として、内容も日本語の枠を飛び出し、やや広域的にした。小泉論がアジアの言語にも適用できるからである。

司会 余維 (関西外国語大学)

休憩 (20分) 14:40—15:00

研究発表 7. 日中受身文の対照研究—リアリティの観点から— 15:00—15:30
楊彩虹 (立命館大学)

本研究では、概念的な「素表現」に対して、現実世界に起こる個別的、具体的な事態を表現することを「リアリティ」と定義した。中国語受身文は「素表現」においては成立しないが、リアリティを持つ表現においては成立する。“了”、“着”、結果補語などの成立条件は、すべて「具体化」、「個別化」を図り、文に「リアリティ」を付加するという共通の働きが見られた。さらに、「概念的なこと」(*草籽被鸟吃。)*、「抽象的なこと」(*在巴西葡萄牙语被说。)*、「非現実的なこと」(*他不写作业, 被老师说。)*が受身文として成立しないのはリアリティを持たないためであるという仮説を検証した。一方、日本語ではこのような制限がなく、受身文が成立しやすい。

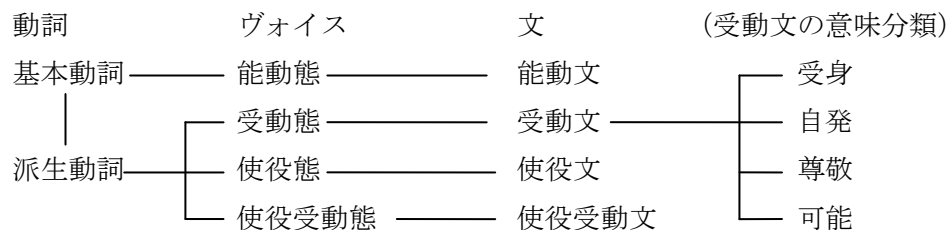
研究発表 8. 受身表現について—日本語との対照から見た考察— 15：30—16：00
藤田昌志（三重大学）

日本語の受身表現は中国語の受身表現より使用範囲が広い。では、日本語の受身表現はどのような中国語表現と対応するのであろうか。3種類の日本現代小説とその中国語訳から971例を収集し、調べた結果、次のことが判明した。Ⅰ. 受身（日）が受身（中）になる場合 324例、Ⅱ. 受身（日）が非受身（中）になる場合 647例。Ⅰの下位分類には“被”字句になる場合（86%）、意味上受身文（4%）、“挨”、“遭”、“让”、“受”の使用などがあつた。Ⅱの下位分類には1.主客転換（27.4%）2.意識（25.5%）3.～される（日）→～する〔非受身表現〕（中）（18.7%）4.存在句型“一着”型（7.7%）などがあり、1.主客転換はとりわけ重要である。それぞれについて例示し、説明、考察する。

研究発表 9. 日中両言語の受身表現を用いる言語環境 16：00—16：30
高橋弥守彦（大東文化大学）

筆者は日本語のヴォイスと文との関係を以下のように整理し図表化している。

[表1] ヴォイスと文との関係



中国語の“被字句”の意味構造は、「受事主体+他からの影響が加わった出来事」と分析している。これは日本語の受身文にも適用できるようである。この観点に基き、これまで言われてきた中国語の語彙上の受身文と意味上の受身文を分類すると、この基準の有無により、これまで通りの受身表現と、一般文型および受事主体文に分けられる。

以上司会 山口直人（大東文化大学）